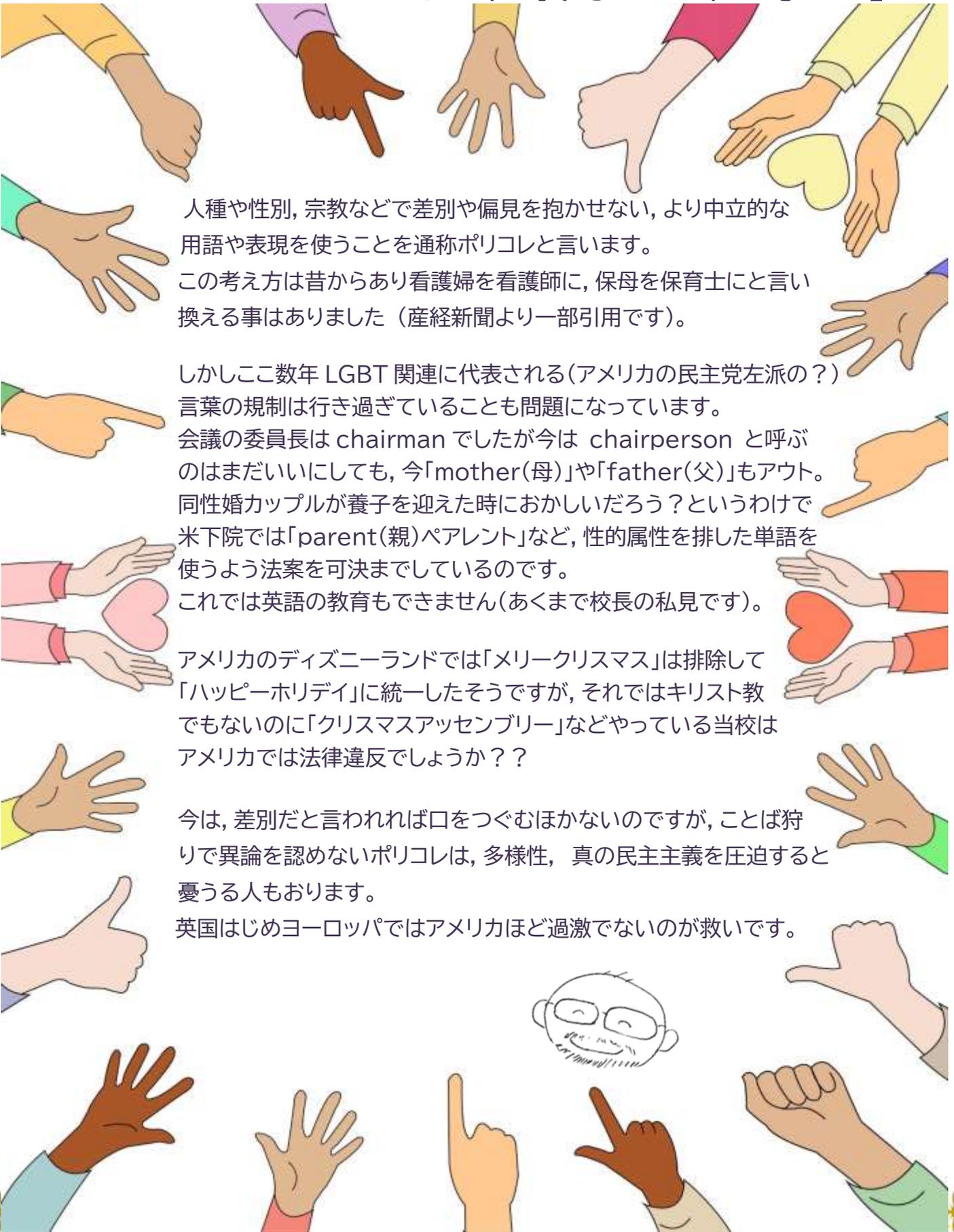


Principal Correspondence

「ポリティカルコレクトネス(正義的正しさ)を考える」



人種や性別、宗教などで差別や偏見を抱かせない、より中立的な用語や表現を使うことを通称ポリコレと言います。

この考え方は昔からあり看護婦を看護師に、保母を保育士にと言い換える事がありました（産経新聞より一部引用です）。

しかしここ数年 LGBT 関連に代表される(アメリカの民主党左派の?)言葉の規制は行き過ぎていることも問題になっています。

会議の委員長は chairman でしたが今は chairperson と呼ぶのはまだいいにしても、今「mother(母)」や「father(父)」もアウト。同性婚カップルが養子を迎えた時におかしいだろう?というわけで米下院では「parent(親)ペアレント」など、性的属性を排した単語を使うよう法案を可決までしているのです。

これでは英語の教育もできません(あくまで校長の私見です)。

アメリカのディズニーランドでは「メリークリスマス」は排除して「ハッピーホリデイ」に統一したそうですが、それではキリスト教でもないのに「クリスマスアッセンブリー」などやっている当校はアメリカでは法律違反でしょうか??

今は、差別だと言われれば口をつぐむほかないのですが、ことば狩りで異論を認めないポリコレは、多様性、真の民主主義を圧迫すると憂う人もおります。

英国はじめヨーロッパではアメリカほど過激でないのが救いです。



Principal Correspondence

空間的知能について

太古の昔、人は森や山の中に住んでいて、前に進むためには、立体的な地形を乗り越えなければなりません。そのこと自体は楽しいものでそれによって身体性をもって世界を認識していました。

現代では、人は家や町など平面や直線の人工物を作って暮らし、机上の勉強や、画像など二次元の平面に囲まれて生きるようになっていきます。すると、いつの間にか体を通して世界とつながる感覚を失ってしまいました。

空間認識に関係する脳の部位や、主に海馬は自分の体をもって多様で複雑な空間を探求し、歩き回ることによって発達すると言われます。山の中や自然との触れ合いは創造性やイノベーションに重要な役割をするのです。

日本の代表的な渋谷の交差点に立って受ける情報より、森の中の方が、鳥のさえずりや風の音や、様々な五感を刺激する情報が何倍も潜在意識に取り込まれると言います。北欧では空間認知能力を高めるのに、外遊びや自然体験をどうやって鍛えるかの研究も盛んになってきています。

夏こそ子どもの季節。もうすぐ夏休み。登山、キャンプ、海水浴、天体観測、トレッキングなどなど経験させたいものです。

育脳学童では積極的に自然体験を取り入れたイベントを用意しています。

